

子どもたちの成長を願って

(H25・4・1)

平成25年度 教育委員会取組方針

<めざす子ども像> ふるさとを愛し 未来を拓く子

<基本方針>

未来を担う新居浜の子どもたちが、自立して社会で生きていく力を身につけるため、人や自然、社会、世界との関わりを深め、豊かな心と創造する力を育み、郷土に誇りをもつ子どもの育成を目指す。

<スローガン> 愛情と信頼・深めよう 絆

目 標

- I 豊かな心と健やかな身体を育み、信頼される学校づくりの推進
- II 確かな学力を育む教育の推進
- III 規範意識を養い、社会で適切に行動できる子どもづくりの推進
- IV 郷土を誇り、志を育む教育の推進
- V 地域全体で子どもたちをまもり育てる体制づくりの推進

◎→実施事項 ○→努力・検討事項 赤下線部→新規取組事項

I 豊かな心と健やかな身体を育み、信頼される学校づくりの推進

1 夢を育む学校づくり

(1) 開かれた学校づくり —— 学校と地域の双方向性コミュニケーションを形成することが必要であり、保護者・地域住民等に学校情報を公開し、共通理解を得ることを通じて信頼を得るとともに、学校・家庭・地域社会の連携を推進する。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 信頼される学校を目指す。
 - ・ 開かれた学校づくりを進める中で「学校評価」を行い、現状と課題を明確にするとともに、今後の改善方策について検討する。また、その結果を保護者・地域住民等へ公表する。
 - ・ 平成24年度評価を平成25年度当初の校長会で公表し、情報交換を行うとともに、情報を共有する。
 - ・ 学校評価として、自己評価・学校関係者評価を実施し、学校便り、学校のホームページ、公民館へ掲示するなどの方法で、積極的に公開し、課題解決に取り組む。
- ◎ 教育委員会・学校の情報公開を進める。
 - ・ 教育委員会から学校・公民館等へ発信する教育情報を教育委員会のホームページで公開する。
 - ・ 教育目標・教育計画・活動状況・成果等を保護者や地域住民等に様々な場面で公開し、説明責任を果たす。
 - ・ 各学校のホームページを活用し、積極的に学校情報を発信する。

- ◎ 「教育懇談会」の実施により開かれた学校づくりを推進する。
 - ・ 子どもを取り巻く環境が変化してきた中で、将来を担う子どもが健やかに育ち、確かな学力を身に付けるために、学校・家庭・地域社会がそれぞれ持つ教育機能を十分に発揮するとともに課題を共有化し、課題解決のための方策を協議・連携を深めることをねらいとして開催する。
 - ・ 一学期中に中学校校区で、市P連・各単位P等の協力を得て開催する。
- ◎ 「学校へ行こうデイ（日）」を推進する。
 - ・ 「来て・見て・知って、みんなの学校！」開かれた学校づくりを一層推進し、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、互いに課題や成果を共有し、共に子どもたちを育てる機運を高めていく。
 - ・ 学校の自主性や創意工夫をこらした教育の展開を図るため、毎月（原則15日）又は学期に1回以上の「学校へ行こうデイ（日）」を設定し実施する。
 - ・ 小学校は10月4日（金）、中学校は9月25日（水）に統一して「学校へ行こうデイ（日）」を実施する。
 - ・ 危機管理を視野に入れながら、市政だより、公民館報、ホームページ等を活用して、参加者の増加を図る。また、学校選択制に対応するため、申請受付前に校区外の保護者・市民への周知に努める。

(2) 特色ある学校づくり —— 学校は地域の誇りであり、選ばれる立場にあるということを認識し、学校教育の画一性・受け身体質を克服し、各学校がそれぞれの実情に応じ、自主的・自律的に創意・工夫をこらした教育の展開を図る。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 「夢広がる学校づくり推進事業」を推進する。
 - ・ 新居浜小 —— 伝えよう、広げよう、元気な新小
 - ・ 宮西小 —— 人とつながり 未来へはばたく みやにし
 - ・ 金栄小 —— 金栄 いきいき つながり プロジェクト ～ 地域の方々との交流活動を通して～
 - ・ 高津小 —— ふるさと発見
 - ・ 浮島小 —— つないでつくろう、元気な浮島！
 - ・ 惣開小 —— 日本のよさを見直そう ～自然との繋がり、人との繋がり～
 - ・ 若宮小 —— 自己を拓き 広げよう とともに 生きる力
 - ・ 垣生小 —— 「垣生の地域力」を生かした体験的な学びの創造 ～社会連携を生かした実践的な環境教育・防災教育の推進～「いのち」「きずな」を育もう！
 - ・ 多喜浜小 —— 郷土の誇り 多喜浜塩田再発掘
 - ・ 泉川小 —— 地域とともに育つ泉川っ子 —— つなげよう石山先生の教え ——
 - ・ 船木小 —— 児童の心が豊かに育つ環境づくり
 - ・ 大生院小 —— 伝え合おう つながるために ～ 人・もの・自然とのかかわりを通して～
 - ・ 大生院中 —— 感動を共有しよう！～伝えあい、学び合いを通して～
- ◎ 「子ども会議」を開催する。
 - ・ 子どもたちが自由に意見を出し合い、自分たちの夢や輝く未来を実現するために意見交換を行う場を設定する。また、話合いの結果に基づき「新居浜市こども夢未来基金」を運用し、事業化の可否を検討する。
 - ・ 公募や学校推薦された小学5年生から中学3年生までを対象として、合同で7月28日（日）に開催する。

- ◎ 芸術文化に親しむ教育を推進する。
 - ・ 子どもたちが身近に本物の芸術文化を体験できる機会を提供し、子どもたちの芸術文化を愛する心を育てるとともに、豊かな情操を養うことを目的に学校出前コンサート、芸術文化キャラバン隊を実施する。
- ◎ 笑いコミュニケーション講座
 - ・ 東中・西中・南中・中萩中・大生院中で実施する。
- ◎ 中学校スポーツトップアスリート事業を実施する。
 - ・ 中体連専門部との共同実施により25年度バスケットボール競技を実施する。
- ◎ 高等学校スポーツ支援事業を実施する。
 - ・ スポーツで優秀な成績の中学生が市内の高校に進学し、スポーツを続ける環境を整備するため、高校スポーツ部活動の支援事業を行う。
- ◎ 教職員の資質の向上のための支援事業を実施する。
 - ・ 教職員と教育委員会とが合同し、先進的な教育実践・取組をしている学校現場等での研修によって指導力及びリーダーとしての資質の向上を図る。

2 不登校対策

(1) 不登校対策の充実

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 各中学校区における小中連携の取組を実践する。
 - ・ 小中合同で協議を行い、9か年を見通した教育計画（グランドデザイン）を作成する。
 - ・ 中学校区別研修会を実施する。（「小中連携の日」として設定）
 - ・ 小中学校教職員、児童・生徒の交流を深める。（学校行事等を工夫）
 - ・ 中1ギャップの解消に向けた取組を実践する。
- ◎ 「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立政策研究所事業：文部科学省指定）を南中校区で実施する。
- ◎ 「新居浜市不登校対策検討委員会」を設置し、中1ギャップと小中学校の連携について調査研究やその研究内容を各学校に提供する。

（校長2名、教頭2名、小中学生指導主事2名、養護教諭1名、スクールカウンセラー1名、適応指導教室室長、スクールソーシャルワーカー1名及び学校教育課職員2名を基本に構成し、年間3回程度開催）
- ◎ いじめ・不登校チェックリストの活用を図る。
 - ・ 小中学校のいじめ・不登校を早期発見し、予防するため、保護者向けに作成した「不登校早期発見チェックリスト」、「いじめのチェックリスト」を市教育委員会のホームページに掲載する。
- ◎ 親と子のふれあい相談室「あゆみ」（土曜日教育相談室）を設置する。
 - ・ 新居浜市総合福祉センター（ふれあいプラザ）1階相談室で実施

(2) 学校における取組

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 基礎・基本の定着を図り、分かる授業の充実と家庭学習を充実させ、学力の向上を図る。
- ◎ 望ましい人間関係づくり、悩みや不安等の相談活動の充実に努め、不登校の未然防止を図る。

◎ 学級生活の満足度や意欲についての楽しい学校生活を送るための心理検査（^{キュー} - ^{ユー}U）を実施し、いじめや不登校などの問題行動等の未然防止と学級経営改善に役立てる。

- ◎ 校内の生徒指導委員会や不登校対策委員会などを通して、不登校生の実態や対応等について情報交換を行い、全校体制で取り組む。
- ◎ 不登校問題に対応するため、小中学校の連携を密にし、情報交換や引継ぎ等の充実を図る。
 - ・ 中1ギャップ対応職員を配置する。（東中・西中・南中・北中・泉川中・角野中・中萩中・大生院中・川東中）
- ◎ 学校に配置するハートなんでも相談員・スクールカウンセラーと連携を図り、学校における相談体制の充実と向上に努める。
 - ・ ハートなんでも相談員を配置する。（新居浜小・宮西小・金子小・金栄小・高津小・惣開小・神郷小・泉川小・中萩小・角野小・東中・西中・南中・船木中・中萩中）
 - ・ スクールカウンセラーを配置する。（多喜浜小・泉川小・北中・泉川中・大生院中・角野中・川東中）
 - ・ 不登校生やその保護者・教員に対するカウンセリング等、教育相談の充実を図る。
 - ・ 校長のリーダーシップによる学級担任や不登校生を支える体制づくりに努める。
- ◎ 「児童生徒をまもり育てる協議会」等において不登校の実態を公開し、民生児童委員、主任児童委員等地域との連携を図り、学校・家庭・地域が一体となって不登校問題に取り組む。
- ◎ ひきこもり傾向の児童生徒を対象にIT等を活用した学習支援により、不登校生の学力の定着を図る。
 - ・ IT等を活用した学習支援が必要な児童生徒の実態把握や情報収集を行うとともに、面接指導や訪問指導等を行い、不登校生とのコミュニケーションを図る。
- ◎ 学校とあすなる教室とが連携を図り、常に入級・通級児童生徒の情報交換を行う。
- 自学自習支援事業を検討する。
 - ・ 学習内容が十分定着しないままでの進級が、非行や不登校の原因の一つとして考えられるため、長期休業中に補充学習や発展学習を行う。

(3) あすなる教室における取組

<重点実施項目・内容>

- ◎ 学校、関係相談員や関係機関との連携を図り、不登校生や保護者への支援を行う。
 - ・ 保護者会、カウンセリングなどを通して、児童生徒や保護者の支援を行う。
 - ・ 入級・通級児童生徒について、相談員が学校訪問したり、「担任の会」を定期的で開催し、関係学校との情報交換を密にする。
 - ・ あすなる通信やホームページを活用し、積極的に活動情報を発信する。
- ◎ 相談活動の充実及び関係機関との連携強化のためにスクールソーシャルワーカーを配置する。
- ◎ 中学校の不登校生徒・保護者を対象とする進路相談会を実施する。
 - ・ 年に2回程度、定時制・通信制を含む県立高校、私立高校、専修学校等による進路説明会を開催する。
- ◎ 自然体験活動を実施する。
 - ・ 登山や宿泊体験など自然体験活動を実施することにより、目標に向かって努力する体験や集団活動を通じて、自信を回復し、支え合う仲間存在に気づき、社会的自立を支援する。

- ◎ 学校と連携し、不登校生の学力の定着の支援を行い、入級児童生徒の学校復帰を図る。
 - ・ 夏季休業中に学校関係者の協力のもと学習支援講座を開設し、不登校生の学習支援を行う。
- ◎ 不登校対策総合連携推進事業（文部科学省指定）をあすなる教室を拠点として実施する。

3 特別支援教育

「特別支援教育は教育の原点」としてとらえ、一人一人を大切に、児童・生徒の障がいの重度・重複化や多様化、発達障がいのある児童・生徒の教育的ニーズに応じて適切な指導及び必要な支援を行う。

- (1) 発達支援課の取組 — 障がいや発達課題のある子どもが、地域で共に育ち、学び、働き、暮らす支援の体制づくりに取り組み、障がいの有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を目指すものとする。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 新居浜市障がい児防災教育推進指定校を浮島小学校とする。（平成24年度～25年度）
 - ・ 防災教育推進連絡協議会を設置し調査検討をする。
- ◎ 保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校での巡回相談や個別相談を実施する。
 - ・ 障がいや発達課題のある子どもや家族に対し、早期対応・継続支援の充実を図る。
- ◎ 早期療育として、「育ちの教室」・「ことばの教室」の充実を図る。
- ◎ 愛媛大学と連携し、発達障がい児童・生徒に対しソーシャルスキルトレーニングを実施し、人間関係づくりの向上を図る。
- ◎ 関係機関との連携のため、地域発達支援協議会を設置し、一貫した支援を行う。
 - ・ 保育園・幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校の連携を深める。
 - ・ 「個別の支援計画」（サポートファイル）を作成し、関係機関への引継ぎを行う。
 - ・ 個の状況により、必要が生じた場合、関係機関によるケース会議を行う。
- ◎ 幼稚園や小・中学校における障がいや発達課題のある子どもを支援するため、特別支援教育支援員制度の一層の充実を図る。
- ◎ 通常の学級における有効な支援の方法について、実践事例集を作成する。
- ◎ 様々な障がいについて理解・支援の方策について研修できる場を設定するとともに、情報発信を行う。
- ◎ 発達支援・特別支援教育の中核的機関として、「新居浜市こども発達支援センター」の充実を図る。

- (2) 学校における取組

<重点実施項目・内容>

- ◎ 障がいのある児童生徒一人一人の指導を充実するため「個別の指導計画」を作成する。
 - ・ 一人一人のニーズに応じた「個別の教育支援計画」（個別の支援計画：サポートファイル）を作成し、教職員の共通理解のもとにきめ細やかな指導・支援を行う。
- ◎ 校内委員会において、特別支援教育コーディネーターを中心に学校全体の支援体制を整備する。
- ◎ 教員研修の充実により、教育的対応の強化を図り、学校運営の円滑化を推進する。
- ◎ 特別支援学校のセンター的機能を活用し、助言又は援助を要請し、教職員の資質・能力の向上を図る。
- 県立新居浜特別支援学校などに在籍する児童生徒との交流、校内における交流及び協働学習を計画的かつ組織的に行い、地域で共に育ち、学び、生きていくことに取り組む。

- 障がいのある児童生徒一人一人の特性を理解し、その児童生徒が将来自立していくため、進路指導を含め、方策を検討する。

◎ 特別支援学級設置学校長管内別研究協議会を開催する。(会場校：東中)

4 人権・同和教育についての取組

人権尊重の理念を全ての教育活動の基礎におき、現職教育の充実、進路を保障する教育の実践、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決につながる学習の推進、仲間意識に支えられた集団づくりを通して、生きる力を育むよう努める。

(1) 教育実践交流の充実

<重点実施項目・内容>

- ◎ 人材育成に努め、実態に応じ、職務内容を具体的に見直し、実践に当たっては、校長の指導・助言のもと人権・同和教育の推進を図る。
- ◎ 新居浜市小・中学校人権・同和教育研究大会を実施する。
 - ・ 小学校4群（金子小、高津小、惣開小・大生院小、神郷小）中学校3群（南中、北中、川東中）を会場校とし、授業公開、授業研究を中心に同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決につながる人権・同和教育の実践交流を図る。
- ◎ 東予地区人権・同和教育研究協議会の開催（11月8日（金）会場校：宮西小、西中（みなと保、東高）
- ◎ 「新居浜市人権尊重のまちづくり条例」で規定されている「人権のつどい日」（毎月11日）の周知・啓発に努める。
 - ・ 「人権のつどい日」への積極的な参加を図る。

(2) 校別人権・同和教育懇談会開催事業への取組

<重点実施項目・内容>

- ◎ 基礎研修、学級・学年別懇談会、地区別懇談会の3本柱で実施する。
- ◎ 地区別懇談会は、同和問題の解決を重要な柱として取り組み、小学校と中学校の役割分担を明確にするとともに、学校・行政・保護者・地域住民が協力して実施する。
- ◎ 市職員は、校区ごとに計画段階から参加し、指導的な役割を果たすように努める。

(3) 「愛ある愛媛の道徳教育推進事業」（文部科学省指定）を実施する。(平成25年度～26年度指定校：角野中)

5 図書館活用教育の推進への取組

子どもの読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにする。そのために、人生をより深く生きる力を身に付ける上で、欠くことのできない図書館活用教育の推進を図る。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 学校図書館支援推進事業を実施する。
 - ・ 学校図書館支援員を4名から6名に増員して派遣し、図書館の整備、計画的な図書館活用指導、教職員と連携しながら学校図書館や市立図書館の資料を活用した授業・学習支援に取り組む。
- ◎ 「お話し会」を実施する。
 - ・ 市立図書館司書・ボランティアにより、館内・館外においてのお話し会（絵本の読み語り、紙芝居、本の紹介等）を実施する。

- ◎ 移動図書館車（青い鳥号）の活用促進を図る。
 - ・ 学校巡回（小学校13校・中学校2校）を一部昼休みに行き、活用を促進する。
- ◎ 夏休みに「体験一日図書館員」等、子ども向けの催しを開催する。
- ◎ 職場体験や施設見学の受入れを行う。

6 帰国子女外国人子女についての取組

社会のグローバル化により、帰国子女・外国人子女の就学に対応する。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ にはま日本語の会の協力を得て、日本語指導の充実を図る。
- ◎ 学校生活に対応するための理解を深める。

II 確かな学力を育む教育の推進

1 確かな学力の向上

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 確かな学力の定着と向上を図るため、学力向上に係る検証改善を行い学習指導の改善に努める。
 - ・ 新居浜市教育研究所内に「新居浜市学力向上推進委員会」を設置する。
 - ・ 標準学力調査等の結果を活用し、学校が取り組んできた成果や課題を明確にする。
 - ・ 全ての学校が取り組む共通努力目標と各学校の努力目標や取組計画を教育委員会のホームページに掲載する。
- ◎ モデル校（垣生小、泉川中）に電子黒板機能付プロジェクター等を整備し、ICT機器を活用した効果的な授業実現に向け研究を推進する。
- ◎ 「新居浜市小・中学生科学奨励賞」事業を実施する。（発表会1月18日（土））
 - ・ 目的 科学とのふれあいを通して豊かな人間性を育む。
 - ・ 応募資格 新居浜市内の小・中学生 個人又はグループによる研究
 - ・ 研究内容 身近な出来事、人やもの、自然とのかかわり合いの中で、興味をもって考え調べたこと、「なぜ、どうして？」と不思議に思い、考え、調べた内容、理科を中心とした自然科学とともに、生活科・総合的な学習の時間等の研究を各自で発展させたものを含む。
- ◎ 伝える力を育む教育の推進事業を行う。
 - ・ 「こころのことば」コンクールを実施する。
多感な時期にある児童生徒が日常生活の中で、「言いたいけど言えない思い」を書くという原点に立ち返り、親子が互いの思いを伝え合い、心の交流のきっかけにするためにメッセージを作成し、発表する機会を提供する。
- ◎ 「森はともだち」推進事業（県指定）を実施する。（船木小：平成24年～25年）
- ◎ 中学校弁論大会を実施する。（7月12日（金））
- ◎ 中学生英語スピーチコンテストを実施する。（9月30日（月））
- ◎ ALT及び英語指導員の有効活用について調査・研究を図る。
 - ・ 小学校1・2年生では課外活動、3・4年生では総合的な学習の時間、5・6年生では「外国語活動」において、教育課程の趣旨に沿ったALT及び英語指導員の有効活用方法を調査・研究する。
- ◎ NIE活動を実践する。（角野小：平成24年～25年）

◎ 学校図書館の蔵書の拡充や新聞の配備を行い、学校図書館支援員と協力し、調べ学習や図書資料を使った探究的学習ができる環境づくりを行うなど、学校図書館機能の一層の充実を図る。

2 人にやさしいまちづくり

(1) 環境教育の推進 —— 児童・生徒に対して「活動を通じて省エネ・環境保全に対する意識や実践的な行動力を高める。」ことを目標とする。

<重点実施項目・内容>

- ◎ にいはまスクールエコ運動（地球にやさしい学校づくり）を推進する。
 - ・ 実践校から申請を受け、審査の上、認定を行う。（宮西小、浮島小、船木小）
 - ・ 夢広がる学校づくり推進事業を活用し、認定校の増加を推進する。
 - ・ 現在の認定校 （新居浜小、高津小、垣生小、神郷小、泉川小、角野小）
- ◎ 「にいはま子ども環境サミット」を開催（7月25日（木））するなど、環境保全活動の推進を図る。
- ◎ 地球温暖化防止と節約の精神を培うため、光熱水費等の使用量削減に努める。
 - ・ 目標を持って取り組むため、前三か年の平均使用量との対比を各学校へ通知する。
- ◎ 学校だけでなく、家庭での取組への活動に努める。
- ◎ 「海や浜辺を美しくする運動」を実施する。（平成25年度：多喜浜小）

(2) 安全・危機管理 —— 『防災』と『防犯』の二つの視点から、大切な命を家庭・学校・地域で一体となって守り、支え合う教育を推進する。

<重点実施項目・内容>

防災

- ◎ 防災教育を推進する。
 - ・ 全小中学校において、学校の実態に応じて、年間10時間以上の防災学習・行事等を計画し、実施する。
 - ・ 施設見学、出前講座、防災訓練、防災学習等を地域の協力を得て推進する。
 - ・ 救命救急法の講習として、中学2年生全員を対象にAED（自動体外式除細動器）の取扱いを指導する。
- ◎ 防災リーダー研修を実施する。
 - ・ 小学校高学年を対象に、防災リーダー研修（神戸市にある人と防災未来センター、淡路市北淡震災記念公園の見学）を行い、子どもたちの防災意識の醸成を図る。
- ◎ 地域防災組織育成助成事業（船木校区・大生院校区：平成23年度から25年度）を実施する。

防犯

- ◎ 危機管理と不審者等への対応に努める。
 - ・ 文部科学省のマニュアルに沿い、「平常時」と「非常時」の各学校の対策計画を作成し、不審者対応訓練、避難訓練を実施する。
- ◎ 命を守り、大切に教育を推進する。
 - ・ 身の回りの安全・安心について、発達段階に応じて理解を深めていく。
- ◎ CAP教育プログラムを実施する。
 - ・ 子どもたちがいじめ、誘拐、虐待等様々な暴力から自分の心と体を守るための教育プログラムとして、CAP（Child Assault Prevention：子どもへの暴力防止）プログラムを、小学校4年の全学級で実施する。

- ◎ 児童・生徒の通学時の安全対策として、定期的に通学路の再点検を行う。
 - ・ 通学路安全推進事業（文部科学省委託事業）を、小学校5校（金子小、高津小、多喜浜小、泉川小、中萩小）で実施する。
- ◎ 地域安全マップの作成とその活用を図る。
 - ・ 迅速な不審者情報の報告、提供等によって、安全、危機管理に対する意識を高め、児童・生徒の安全確保に努める。また、定期的に再点検を行う。
- ◎ 子どもの人権擁護に努め、虐待児童の早期発見や対応を積極的に推進する。
- ◎ 「子ども見守り隊」の定着を図り、防犯ボランティア協力体制を強化する。
 - ・ 子どもの安全確保のための学習会を開催する。
 - ・ 情報交流会を開催するなど情報交換の場を定期的に設け、地域との連携を深める。

(3) 健康管理—— 運動・健康に関する指導の改善を図る。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果（抽出データ）を活用する。
 - ・ 各学校が児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体力・健康に関する指導の改善に役立てる。
 - ・ 教育委員会主催「新居浜市学校保健研究大会」と「新居浜市学校給食研究大会」を並立して相互開催をする。（平成25年度「新居浜市学校給食研究大会」高津小学校で開催）
- ◎ 実践的な環境学習、食育の調査研究を推進する。
 - ・ 学校における「食に関する指導の全体計画」を整備し、計画的に食育を推進する。また、各校の実態に応じた「食に関する体験活動」を実践する。
- ◎ 第70回学童歯みがき大会への参加と、健康意識の向上を図る。浮島小（4・5年）、新居浜小（6年）、角野小（5年）
 - ◎ むし歯予防を積極的に推進するため、フッ化物洗口普及事業（平成25年度：浮島小、惣開小、神郷小）を実施する。
 - ◎ 運動器検診を実施する。
 - ・ 運動器障害を早期に発見し適切な指導を行うため、中学2年生を対象に実施する。

3 学校給食の充実

生産者の顔が見える食材で地域の自然や産業に理解を深める。

<重点実施項目・内容>

- ◎ 地場産物等を活用した食育の推進を図る。
 - ・ 安全で新鮮な地元食材を利用した給食に努める。
 - ・ 毎月19日を『食育の日』として、地域の食材を使用した郷土料理などの特徴を生かした給食の実施に努める。
 - ・ 地産地消率を野菜30%、米60%を目標とする。
- ◎ 学校給食だより等を配布し、食を通して「体の健康と心の健康」を推進する。
- ◎ 給食研究市指定校「新居浜市学校給食研究大会」（平成25年度 高津小）を実施する。（6月28日（金））
- ◎ より多くの生徒に栄養バランスのとれた給食の提供に努める。
 - ・ 中学校給食において、成長期の子どもたちにとって望ましい給食の在り方についてさらに検討し、改善をしていくとともに、生きた教材としての献立の実施に努める。
 - ・ バイキング給食を実施する。

- ◎ 食中毒予防対策の徹底を図り、衛生管理の向上・安全保持に努める。
- ◎ 学校給食費の未納解消に努める。

4 学校教育環境等の整備

重点実施項目・内容

- ◎ これまでの小・中学校の通学区域弾力化を評価・検討し、必要に応じて改正を検討する。
- ◎ 活力ある学校づくりを促進させるため、適正な学校規模、適正な学校配置について検討する。
- ◎ 学校施設・設備の適正な保守及び維持管理を図り、児童生徒が安全で快適な教育を受ける環境を整備する。また、老朽化した校舎を含め、学校施設の大規模改修工事を計画的に実施する。
 - ・ プール改築工事 — 金栄小学校
 - ・ 運動場排水工事 — 宮西小学校、多喜浜小学校、北中学校
 - ・ 防球ネット工事 — 宮西小学校、多喜浜小学校
 - ・ 運動場照明工事 — 宮西小学校、多喜浜小学校、垣生小学校、中萩小学校、角野中学校、大生院中学校
 - ・ 大規模改修工事 — 泉川小学校（設計）
 - ・ 校舎トイレの洋式化整備工事
 - ・ 特別教室扇風機設置工事 — ほか、体育館屋根塗装、外壁改修、プールフロア改修等
- ◎ 大規模地震における学校施設等の耐震対策を実施し、安全性を確保する。
 - ・ 園舎耐震補強工事 — 神郷幼稚園
 - ・ 体育館非構造部材の点検
- ◎ 学校給食施設の改修計画を検討する。
 - ・ 建設検討委員会を立ち上げ、今後の改築計画等の素案作りを行う。
- ◎ 保護者負担となる物品等の購入は、可能な限り保護者の負担軽減を図るとともに、説明責任を果たす。
 - ◎ 義務教育は無償であるとの原則に立ち、公費で負担すべきものは、学校PTAを含め保護者の負担を求めないものとする。
 - ・ 公費負担が必要な経費については予算の確保を図る。

5 教職員施策提案の募集

重点実施項目・内容

- ◎ 教育行政の今日的課題について、広く具体的な教職員の意見を求める。
 - ・ 「新居浜市教職員提案制度」を実施し、可能な限りその内容を新規事業の企画立案や既存事業の見直し等に活用する。

6 学校の裁量の拡大

重点実施項目・内容

- ◎ 特色ある学校づくりを目指した人事を検討する。
 - ・ 教職員配置希望制度を充実させる。
- ◎ 学校管理運営予算等の弾力的運用をする。
 - ・ 学校の企画提案に基づいた「夢広がる学校づくり推進事業」を充実する。
 - ・ 学校裁量の拡大を進めるため、学校からの予算要望制度を拡充するとともに、予算の使い勝手をよくするため、配分単位のくくりを大きくするなど、配分手法の工夫を行う。

Ⅲ 規範意識を養い、社会で適切に行動できる子どもづくりの推進

(1) 積極的な生徒指導の充実 —— 社会にルールがあるように、学校にも守るべきルールがある。学校と家庭が連携し、子どもたちに規範意識、基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、学力低下の要因には、学習意欲や学習習慣の欠如があり、生活習慣を確かなものとし、学習意欲、学習習慣を形成する。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 積極的な生徒指導を推進する。
 - ・ 挨拶や言葉をかけ合える「ひと」づくり
 - ・ くつ（履物）・傘等の整理整頓
 - ・ 家庭と連携をした早寝、早起き、朝ごはんの指導
- ◎ 児童・生徒の問題行動に対処するため、家庭、地域及び、小中高校における一層の情報共有、行動連携を図り、積極的な生徒指導体制を確立する。
- ◎ 警察署、児童相談所、青少年センター、各健全育成団体・機関等との密接な連携を図る。

(2) いじめ問題対策

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ いじめの早期発見、早期対応のために、毎月、実態把握を行う。
- ◎ 定期的な教育相談活動を充実し、児童・生徒の悩みや不安の解消を図る。
- ◎ 7月上旬に「いじめ調査」を行い、集計結果をもとに考察と対応をまとめ、研修資料として各学校に配布する。
- ◎ 校区の「児童・生徒をまもり育てる協議会」等を通じて、学校・家庭・地域が連携していじめ問題の解決に取り組む。
- ◎ 情報モラル教育を充実させ、携帯電話・インターネット等情報機器による、いじめの防止に取り組む。
- ◎ 新居浜市のホームページに「いじめ等相談メール」を開設し、教育長への直接メール相談を受け付け、学校、関係諸機関等と連携し、早期対応を図る。

(3) 幼・保・小・中学校の交流 —— 児童・生徒の不安を軽減する。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 幼・保と小学1年生の担任者との情報交換・交流会等を推進するため、「新居浜市幼保小連携推進協議会」を通じて、相互の交流と理解を深める。
- ◎ 放課後児童クラブとの情報交換や連携を図る。
- ◎ 新旧の担任者（前小学校6年担任者と中学校1年担任者）が情報交換し、児童・生徒への理解を深める。
- ◎ 小学6年生が、中学校の部活動や授業等を参観することにより、中学校生活を体験する場を設定する。また、中学生から小学生（子どもから子ども）へ、中学校生活や生徒会活動、部活動等についての説明や質疑応答のできる場を設定する。
- ◎ 学校行事、部活動での小中学校の児童・生徒の交流、教科外研修等の教職員の合同研修での交流を促進する。
- ◎ 幼・小関連教育を推進する。

IV 郷土を誇り、志を育む教育の推進

1 国際交流・国際理解教育への取組

国際交流・国際理解教育を推進し、小・中学生に未来への夢を持たせ、国際感覚の高揚を図る。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 中学生海外派遣事業を推進する。
 - ・ 「フランクリン＝新居浜」生徒交流プログラム実施協定（平成23年11月締結）に基づき、平成24年度から平成28年度まで海外派遣を実施する。
 - ・ アメリカ合衆国ウィスコンシン州フランクリン市と相互交流を継続して実施する。（新居浜市は10月から11月に訪問団を派遣する。）
 - ・ 実施内容は、互いの教育現場に関わる内容とし、学校の授業参加等学校生活を体験するとともに、社会見学を行うほか、ボランティア宅でのホームステイにより、それぞれの家庭生活を体験する。

◎ 「英語コミュニケーション能力育成事業」を実施する。（平成25年度県指定校：中萩中）

2 キャリア教育

望ましい職業観・勤労観を育むとともに、主体的な進路選択と将来設計ができる児童・生徒を育成するため、奉仕や勤労の精神の涵養などにかかわる体験的活動を積極的に導入するなど、小・中学校の連携を図ったキャリア教育の充実に努める。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ 職場体験学習を実施する。（中学2年生：原則、連続した3日間以上）
- ◎ ものづくり人材育成推進事業を実施する。

3 郷土愛を育む取組

郷土の文化・歴史を知ることにより郷土への誇り・愛着を醸成する。

＜重点実施項目・内容＞

- ◎ ふるさと学習推進事業を実施する。
 - ・ 義務教育9か年を通して、別子銅山や多喜浜塩田等の近代化産業遺産を活用した体験型の学習活動を実施する。
 - ・ 多喜浜塩田文化の保存・継承や児童の体験学習のため、「塩の学習館」を整備する。
- ◎ 「新居浜市小中学生ふるさと学習奨励賞」事業（「めざせ！新居浜ものしり博士」発表会）を実施する。（平成26年3月上旬）
- ◎ 郷土芸能の保存・伝承活動を推進する。
- ◎ 「子ども版とおきの新居浜検定」を実施する。
 - ・ 児童・生徒を対象とした「子ども版とおきの新居浜検定」を商工会議所との連携事業として実施する。（平成26年1月10日（金））
- ◎ 郷土美術館との交流を図る。
 - ・ 本物に出会い、感性を高め、心に深く残る体験をさせるため、子どもたちが参加できる野外教室やワークショップ等の行事を企画する。また、自然科学及び民俗学資料等の常設展示室を活用するとともに、館藏品である絵画・民具・郷土資料の貸出を促進する。

V 地域全体で子どもたちをまもり育てる体制づくりの推進

(1) 学校支援ボランティア活用制度（「学校支援地域本部」委託事業）——「地域の学校・地域子ども」という観点から、子どもたちの学習や生活をサポートするために必要な地域資源を蓄積し、活用するためのシステムを構築する。

<重点実施項目・内容>

◎ 学校支援地域本部事業を実施する。

- ・ 新居浜・宮西・金子・金栄・浮島・垣生・神郷・多喜浜・高津・泉川・中萩・船木・大生院・角野校区で実施
- ・ 学校支援地域本部事業として、子ども見守り隊活動に積極的に取り組む。

(2) 子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、健全育成を図るため学校、家庭、地域が連携し、奉仕・体験活動等を実施することによって、学社融合を図る。

<重点実施項目・内容>

◎ 放課後子ども教室の充実を図る。

- ・ 高津・大生院・泉川・多喜浜・金栄・金子・若宮・中萩校区で実施
- ・ 障がいのある子どもたちを対象に「笑顔がいっぱい教室」を実施
- ・ 教育会が全市の児童を対象に行う「土曜寺子屋」を実施

◎ 通学合宿を実施する。

- ・ 小学生の通学合宿、長期休暇中の合宿を推進する。(新居浜・泉川・大生院校区)

◎ 放課後児童クラブの運営の充実

- ・ 働く親の子を対象として、放課後等の子どもの居場所を確保する。別子小を除く全小学校校区で実施（浮島小は川東児童センター）金子小・高津小・泉川小・角野小は2か所、中萩小は3か所（うち1か所は上部児童センター）で運営する。長期休暇のみ、4年生の受入れを実施する。(平成25年度夏休みより実施)

◎ 基本的生活習慣の醸成を図る。

- ・ 挨拶・靴をそろえる・朝食を摂る習慣等の基本的生活習慣を家庭において身につけさせる運動を実施する。

◎ 市職員・教職員が地域の一員として、公民館活動等に積極的に参画する。